

交通死亡事故「ゼロ」 1000日を突破

奇跡に近い 記録とか

昭和五十二年六月二日、県道黒埼西川線（木場新田部落）地内で西川町の住民が自損事故で死亡してから、以後「交通死亡事故ゼロ日」を続け二月二十七日で、ついに千日を達成、三月十日現在、一千十二日という喜ばしい記録を更新中です。

二月二十八日、この記録達成を喜ぶとともに、今後も交通死亡事故「ゼロ」をさらに伸ばし、事故のない明るい町建設のため、西警察署交通課長、町助役、交通安全協会黒埼支部長、交通指導隊員らが参列し、諏訪神社において折願祭を行いました。

山間部やへき地に この記録はあるが…

この記録は、山間部やへき地、純農村部など比較的交通量の少ない地域に千日、二千日達成の記録はあるもの、一日二万台以上の交通量が激しい国道8号線をかかえ、さらにこれに接続して県道新潟亀田内野線、黒埼西川線など通過交通量が多い地域性にもかかわらず、事故死千日達成は正に奇跡に近いと関係者は話しています。これだけ危険地帯でありながら

「交通安全指導所の設置」
これはドライバーを対象に、国道で車一台一台に対し、パンフレットや児童の書いた「ハガキ」、オシボリのサービスなどを行い安全運転の徹底、周知を。

「街頭指導」
春夏秋冬の交通安全運動旬間には、警察署員、交通安全協会員、同母の会、交通指導隊員らが登下校時、町内各所の交差点に立ち、歩行者、ドライバーに交通規則の遵守の徹底を。

「正しい自転車乗り方教室」
小・中学生・母親・老人を対象に毎年、自転車の正しい乗り方の指導を行い、交通過剰から弱者の保護を。

「トキちゃんクラブ」の結成
全保育所幼児を交通事故から守るため、幼児を対象に、横断歩道の渡り方など、初歩的な安

全対策をはかるため、国際保護鳥トキのワッペンを全幼児の胸に付け、家庭ぐるみ安全知識の啓もうを。

「夜間パトロール」 年間を通じ、警察、交通指導隊員らで、飲酒運転、無謀運転の取締りや自転車の無灯火運転の指導など。

このほかまだ多彩な運動を展開しておりますが、以上が重点的な主な事業です。

この数字は、みなさん一人ひとりの心がけしだいで、まだまだ延長されるはずで、同じ西蒲原地内で環境こそ違い、月湯村が最も近二千日を達成。要湯村が千六百九十五日、松代町二千六百六十三日、鹿瀬町二千二百三十三日と続いています。（三月十日現在）

本町の交通事故件数は（表参照）昭和四十八年の百三十五件、死者五人、負傷者百七十七人をピークに、以後大幅に減少し、昨年は八十七件、もちろんで「ゼロ」、負傷者百二十七人となつています。件数の減少に比較して、負傷者が前年を上回っていることは、国道8号線で車対車の事故で、同乗者が重症を負うというケースが多くなっているもの。

過去10ヶ年 交通事故発生状況

年	件数	死者	負傷者
45	123	2	155
46	132	5	180
47	122	4	167
48	135	5	170
49	96	1	126
50	83	0	114
51	112	1	134
52	100	3	132
53	87	0	100
54	87	0	127

福祉の力こぶ 板井保育所が完成

地域住民の永年の念願であった板井保育所が二月末完成し、三月四日、県の係官などによる厳重な竣工検査も終え、あとは入所を待つばかりです。

田圃を背景にクリーム色の鮮やかな建物付近に一段と映え、美しさとモダンさを強調しているようです。

昭和十一年、公民館の一部を借用して、間借り保育を行ってきた

てからすでに十四年を経過。第一回の卒業生はもう中学生に成長しております。

このころからすでに農閑期ともなると、夫婦であるいは家族全員で出稼ぎにと家を空けることが多く、大切な発育期にある幼児に対する保育に

地域住民の茶の間 柳作地区公民館が完成

町道鳥原寺地線（焼餅団地隣り）に建設中の柳作地区公民館が完成し、地域住民の喜びも、ひとしおというところ。

同公民館は、昨年九月着工し、一月中旬まで雪のなかつた事なども幸いし、順調に工事も進み、予定通り二月末日に完成しました。

館内は、一階に和室二室、調理実習室、図書室、二階にはステージ付きの大講堂、小会議室などが

設けられており、気軽に出入り安いよう設計もほどこされております。

同地域ではこの館の完成によって、今後、集会や健康保持のための食生活の改善実習、読書、お楽しみ会など、広範囲に利用できると、住民は喜びを語っていました。



黒中改築 ハイピッチ

連正きを欠き、以前から公立保育所の建設を要望してきたもの。この程、ようやく永年の念願がかない、鉄筋コンクリート平家建四七六平方、収容人員六十人、冷暖房完備の近代的な施設が完成しました。この保育所の完成で、昨年開所した山田保育所に次いで八番目の公立保育所の誕生となります。

小学校の増改築などがあげられます。本町でただ一校の中学校の大改築は、総工費三億六千万円の巨費を投じて、管理教室棟の西側に灰色の姿を見せはじめ、コンクリート打ちもほぼ終了、二月末現在で、七五%の出来高。三年生は残念ながら新校舎で勉強することができず、建設状況を横目に見ながらちよつぱり残念そう。

二ヶ年継続事業で昨年八月工事に着手してから八ヶ月を経過、思いもよらない大雪にもかかわらず順調に工事も進み、八月末完成を、めどにハイピッチで進められています。

